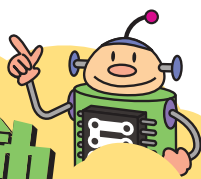


アドバンテストの おもしろ活動

紹介します!



サンバクラブ —楽しさから広がる、 越境型コミュニティ—

●越境型コミュニティとしてのサンバクラブ

アドバンテストには、サンバを通じて人と人とのつながりを広げている社員有志のコミュニティがあります。私たちサンバクラブは、単なる趣味の集まりではなく、部署や職種、国籍、さらには会社の垣根も越えて交流が生まれる「越境型コミュニティ」として、2017年から活動を続けています。

音楽やダンスを通じて自然に会話が生まれ、人と人がつながっていく。そんなサンバの魅力に惹かれて、少しずつ仲間が増えていきました。

●偶然の出会いから始まったサンバ活動

活動のきっかけは、ある偶然の出会いでした。ブラジルの音楽、特にボサノバが好きな上司のお祝いを企画した際、「せっかくなら記憶に残る会にしたい」と考え、生演奏が楽しめるブラジルレストランを会場に選びました。そしてどうせなら一番盛り上がる日にしようと、サンバのショーが行われる日程に合わせて開催しました。

そこで出会ったのが、現在私たちが所属しているサンバチーム「G.R.E.S. IMPERIO DO SAMBA」*（1999年に創設された日本を代表するチームの一つ）です。力強い打楽器のリズム、華やかなダンス、観客を巻き込みながら会場全体が一体となっていく空気感に圧倒されました。気が付けば「見る側」ではなく、「自分たちも参加したい」と思うようになり、それがアドバンテストのサンバ活動の原点となりました。

りました。

当時は、まさか会社の仲間たちと浅草サンバカーニバルの舞台に立ち、多くの観客の前で踊るようになるとは想像もしていませんでした。しかし一度足を踏み入ると、サンバには人を惹きつける不思議な魅力がありました。

現在、サンバクラブには様々な部署のメンバーが参加しています。その多くはダンス未経験者です。「何となく楽しそう」「運動不足解消になりそう」といった軽い動機で参加する人も多くいます。しかし、音楽が流れ始めると自然と笑顔になり、気付けば仲間との距離が縮まっています。サンバには人と人との壁を取り払う力があると感じています。

●浅草サンバカーニバルへの挑戦

私たちの活動の大きな目標は、毎年夏に開催される浅草サンバカーニバル（パレードコンテスト）に参加し、上位を目指すことです。浅草サンバカーニバルは約15団体、約5,000人の演者が出演し、約50万人の観客が訪れる北半球最大級のサンバイベントとして知られています。その規模は圧倒的で、街全体が熱気に包まれます。

150名規模のチームの中で、毎年約10名がアドバンテストサンバクラブから出演して来ました。本番当日の緊張感は何度経験しても慣れません。しかし沿道から聞こえる拍手や歓声、仲間たちと同じ方向を向いて一つの作品を作り上げる達成感は何物にも代えがたいものです。



ひろしまフラワーフェスティバルで多くの来場者と交流



部署や職種を超えた仲間が一つのステージをつくり上げる



沿道の観客に手を振りながらパレードを盛り上げるメンバー

そして2025年の第40回大会では、所属チームが2部リーグで優勝し、1部リーグへの昇格を果たしました。発足当初は初心者ばかりだった私たちにとって、大きな節目となる成果です。もちろんサンバは順位だけを競うものではありませんが、仲間と積み上げてきた努力が結果として表れたことは大きな自信になりました。

●社内外に広がるサンバの輪

活動の広がり象徴する出来事の一つが、社内の交流イベントでのサンバワークショップです。予想以上の多くの社員が集まり、会場は大いに盛り上がりました。最初は少し恥ずかしそうにしていた参加者も、リズムに合わせて体を動かし始めると自然に笑顔になり、気付けば会場全体が一体となっていました。サンバには人を巻き込み、知らない人同士をつなげる力があることを改めて実感した瞬間でした。

また、サンバだからこそ生まれた出会いもあります。例えば、ブラジル出身でありながら本国でサンバカーニバルに参加した経験がなかった当社社員が、アドバンテストの活動をきっかけに初めてパレードに参加したことがありました。日本での活動がきっかけとなり、自国文化を改めて体験する姿はとても印象的でした。多様性とは一方的に学ぶことなく、お互いに新しい発見をすることなのだと実感した出来事です。

さらに、活動を通じてブラジル大使館にも訪問する機会にも恵まれました。本場の文化や歴史に触れ、ブラジルとのつながりをより深く感じる事ができた経験でした。サンバを踊るだけでなく、その背景にある文化や人々の想いに触れることで、活動の意味もより深いものになりました。



一人ひとりの表現がチーム全体のエネルギーを生み出す



初めてでも楽しめることがサンバの魅力の一つ



手作りの衣装に袖を通し、カーニバルへの期待が高まる瞬間

●楽しさから生まれるゆるやかなつながり

私が特に魅力を感じているのは、この活動が「ゆるやかなつながり」を生み出していることです。毎年カーニバルに参加する人もいれば、そうでない人もいます。無理に継続を求めることはありません。しかし、一緒に練習し、同

じ舞台に立った経験は残り続けます。活動から離れても、社内で顔を合わせれば自然と会話が始まり、仲間としてのつながりが続いています。

こうした「ゆるやかなつながり」を大切にする考え方は、私が主催している100人規模のBBQにも通じています。会社や部署の垣根を越えて多様な人が集まり、食事を囲みながら自然に交流が生まれる場です。サンバでは音楽とダンスが、BBQでは食事と会話が、人と人をつなぐきっかけになります。形は違っても、楽しい体験を共有することで関係性が生まれ、その後もゆるやかにつながり続ける点は同じです。

私自身はサンバチームにおいて「REI MOMO」** という役割を担っています。REI MOMO は、カーニバルにおいて場を盛り上げ、人々をつなぎ、祝祭の空気をつくる象徴的な存在です。ただ、実際に活動が続けてこられたのは、私一人の力ではありません。パレードやBBQに毎年参加してくれるメンバー、一度だけでも勇気を出して加わってくれたメンバー、練習や本番を支えてくれるチームの仲間、そして活動を温かく見守り応援してくれる社内外の方々が

いるからこそ、こうした活動は続いてきました。

●出会いから広がるつながり

最初は上司のお祝いのために訪れたブラジルレストランでの偶然の出会いでした。しかし、その出会いは浅草サンバカーニバルへの挑戦、社内の交流イベントでのワークショップ、ブラジル大使館での交流、さらには100人規模のBBQにも通じるコミュニティづくりへと広がり、多くの仲間との出会いを生み出してくれました。

これからも私たちは、楽しみながら自然なつながりを広げていくことを大切に、活動が続けていきます。サンバを通じて人と人をつなぎ、多様性を尊重しながら、アドバンテストらしい活気あふれるコミュニティを育てていきたいと考えています。サンバのリズムとともに、私たちの挑戦はこれからも続いていきます。

*G.R.E.S. IMPERIO DO SAMBA:

<https://gresimperiodosamba.wixsite.com/imperio>

**REI MOMO: モモ王



社内交流イベントでは津久井Group COOと共に場を盛り上げた



色鮮やかな衣装とダンスが観客を魅了する



街を舞台に繰り広げられる華やかなパレード



多様なメンバーが集い、一つのチームとして挑戦を続ける

(株式会社アドバンテスト 人事部
Recruit & Networking Group たかはし ひろき
高橋 広記)